



学校だより

絆の草中

草野中学校 令和5年度第24号

令和5年12月1日

文責：校長 西田 英実

薬物乱用防止教室を開きました

11月15日(水)、薬物乱用防止教室を開きました。毎年実施しているこの教室。今回は、学校薬剤師の方を講師にお迎えし、まさに「薬のプロ」からお話を伺いました。おもな内容は次の通りです。

1 薬物の乱用の現状

- 薬物乱用は、人生を台無しにしてしまう恐ろしいものである。
- 薬物は依存性が高い。やめたくてもやめられない。絶対に手を付けないこと。

2 薬は、本来、病気やケガを治すためのもの。

- 決められたルールを守らない使い方は、すべて「乱用」である。タバコも有害である。

3 興味や誘惑に負けない力、乱用を拒絶する「抗体」を身に付けてほしい。

最後に代表生徒から、お礼の言葉や次のように学んだことを述べ、教室を終了しました。

- 薬物は自分には関係ないと思っていたが、身近なところに入り込んでいるので、気をつけなくては行けない。
- 正しい判断と、誘われても断る勇気を持ちたい。
今回も、保健委員会の生徒による司会進行で行い、自分ごととして捉えるようにしました。生徒は各自の役割をしっかりと務め、責任を果たしていました。



==社会人に学ぶシリーズ その3== 「薬剤師」編

学校へいらっしゃった方から、その仕事をめざした理由や仕事のやりがい、生きがいについて学ばせていただくシリーズ。今回は、薬物乱用防止教室で指導いただいた薬剤師の方からお話を伺いました。

Q この仕事についたきっかけは何ですか？

A 両親が医療関係の仕事をしていたので、自分も医療に興味をもちました。学生時代は部活動(バレーボール)も一生懸命やっていたので、勉強と部活動の両立を目指しました。

Q この仕事をしていてのやりがい、良かった、と思うのはどんなときですか？

A 薬局の窓口でお薬の説明をします。高齢者の方が多いのですが、話をしているうちにお互いに打ち解けていくと、その方の生活のことなどもわかってくるので、より良い処方へつなげることが出来ます。私から「この前のお薬はどうでしたか?」と尋ね、患者さんから「バッチリ効いて良くなったよ」と喜んでもらえるのがうれしいです。患者さんとのコミュニケーションが楽しいです。

Q 仕事をしていて、難しさはありますか？

A お医者さんと患者さんの板挟みになってしまうときが一つ。もう一つは、副作用・副反応の伝達がうまくいかず、難しさを感じる時です。しかし、この点では、経験がものを言います。

Q 今後の夢は何ですか？

A まず、福島県は肥満傾向の若者が多いので健康指導をさらに行いたいです。最終的には「未病」へつなげていきたいです。

市PTA研究大会がありました

11月18日(土)、いわき市PTA研究大会がありました。これまで市内各地で活躍された方々へ表彰があり、その後、いわきFC社長の大倉智様が「いわきの復興といわきFCの取り組み」と題して講演を行いました。地域づくりは人づくりという主題で、サッカー選手が一生懸命がんばる姿を見せること、その姿を市民の方々に応援していただくことを地域の発展につなげていきたい、と熱い想いをお話いただきました。また、「才」があっても「徳」がない選手は伸びない、というお話も印象的でした。



<来週の予定>

日	曜	おもな行事
4	月	授業5校時、部活動なし、空手道あり
5	火	SC 出役、ICT 出役、空手道あり
6	水	短縮授業5校時
7	木	学校司書出役、ICT 出役、空手道あり
8	金	冬休み事前指導2年、学校司書出役、昌平自己推薦入試

※ 12/9 中学生ロボコン、学芸入試 12/10 アンソコン

<今週のことは>

◎「夢中になれるものがあるだけで、あなたは無敵になれる」(教職員弘済会 心に残った先生の言葉)

今、25歳になる青年が、「中学時代、夢中になれるものがなかった僕に先生がかけてくれた言葉です。今は夢中になれる趣味に出会うことができました。」学習、部活動、委員会活動、学校行事。本校生徒も、夢中になれるものがあるとうれしいです。集中力はやがて仕事にも生かされます。